

題目

「IUE・自己志向他者志向エゴグラムで測定される自我状態の自己認知弁別性」

著者

西川和夫* 岐阜聖徳学園大学

掲載誌

交流分析研究（日本交流分析学会） 2009年 第34巻第1号 pp.47—57

分類

自己意識調査統計解析研究

問題と目的

我が国で多用される質問紙エゴグラムの用途は性格測定、治療的診断、教育的応用など多様である。多くの場合、検査実施者が、回答者（被検者）の検査結果を判断材料として利用している。一方で、検査に回答した被検者自身が自分の状態を知ることによって、自己啓発や自己改善に役立てるという利用の仕方もある。この場合には、検査結果が被検者に具体的な自己情報として利用できる形で、直接フィードバックされる必要がある。質問紙エゴグラム IUE の特徴の一つは、交流分析の自我状態理論に心理エネルギーの志向性概念を導入したモデルに基づいていることである。CP、NP、A、FC、AC という五つの機能的自我状態それぞれに、自己対処志向性と他者（外界）対処志向性を区別して測定できるように構成されている。検査のもう一つの特徴は、検査用紙とセットになった結果解説用紙「簡単ガイド」（以下ガイド）を利用して、被検者がその場で自分の検査得点に対応した、自我機能の特徴と自我状態活用ヒントを読み取ることができるになっている。もし検査結果をフィードバックする前に、すべての得点エリアについて、ガイドに記載された自我状態特徴がどれだけ自分に当てはまるかの適合感を回答してもらおうと、被検者が暗黙に認知している自我状態の自己認知傾向を知ることができる。その後本人の実際の得点エリアに対応するガイド記述文への適合感と照合を行うと、被検者がどのように自分の自我状態特徴を弁別的に認知しているかを分析できる。本研究は、ガイド記述文に対する自己適合感を手掛かりにして、心理エネルギーの強度、適応的機能および心理エネルギーの志向性と特性弁別的自己認知の関連を分析している。

方法

調査対象者：大学生 302 名（男 157 名、平均年齢 20.1 歳、女 145 名、平均年齢 20.2 歳）。
実施手続き：最初に、ガイドに書かれている自我状態特徴記述内容に対する自己適合感評定を求める。評定用紙には、機能的自我状態尺度ごとに得点エリアと適応的機能に対応する記述文が分けて印刷されている。回答は 4 件法に基づき「非常に当てはまる」に 4 点、「かなり当てはまる」に 3 点、「少し当てはまる」に 2 点、「当てはまらない」に 1 点を割り振った。次いで IUE 検査用紙への回答を求めた。質問項目が自分に当てはまる程度について「はい」、「どちらとも言えない」、「いいえ」の 3 件法で回答を求め、順に 2 点、1 点、0 点を配当した。

分析

IUE検査得点エリアを基準にして、自己得点該当エリアのガイド記述文と非該当エリアの記述文に対して各受検者が示す適合感の比較を行った。

結果

以下において、各自我状態の肯定的適応機能をプラス面、否定的適応機能をマイナス面と表記する。得点エリアは中間得点エリア（以下中エリア）を省略して、高得点エリア（以下高エリア）と低得点エリア（以下低エリア）の結果のみを示す。

プラス面とマイナス面への適合感：自己志向・他者志向合計 10 下位尺度を通算した有意差検定を行った。プラス面への適合感はマイナス面へのそれより高い値を示した（ $M =$ プラス面 2.89、マイナス面 2.58、 $N = 1,747$ 、 $p < .000$ ）。

プラス面に関する志向性次元と得点エリア次元における適合感：心理エネルギーの志向性次元と得点エリア次元を合わせた 2 要因の分散分析を行った結果、志向性次元では他者志向機能的自我状態に関する記述文への適合感（ $M = 3.02$, $SD = 0.90$, $N=892$ ）が、自己志向機能的自我状態に関する記述文への適合感（ $M = 2.76$, $SD=0.95$, $N=855$ ）より高かった（ $p < .001$ ）。得点エリア次元では、高エリア記述文への適合感（ $M=3.08$, $SD=0.86$, $N=1,188$ ）が、低エリア記述文への適合感（ $M=2.50$, $SD=0.97$, $N=559$ ）より有意に高かった（ $p < .001$ ）。

マイナス面に関する志向性次元と得点エリア次元における適合感：マイナス面の適合感について 2 要因の分散分析を行った。得点エリア次元では、高エリアの記述文に対する適合感（ $M=2.71$, $SD=0.93$, $N=1,188$ ）が、低エリアの記述文への適合感（ $M=2.29$, $SD=0.99$, $N=562$ ）より高かった（ $p < .001$ ）。しかし志向性次元については有意な差が見られなかった。

自己志向機能的自我状態下位尺度高得点者のガイド記述文適合感の得点エリア間比較：下位尺度の各得点エリアに対応する、自我状態の特徴記述文に対する自己適合感の差を t 検定した。下位尺度ごとに多少の差異はあるものの、プラス面についてもマイナス面についても、すべての自己志向下位尺度において高エリアの適合感は、低エリアの適合感より有意に高い値を示した。

自己志向機能的自我状態下位尺度低得点者のガイド記述文適合感の得点エリア間比較：低得点者について、下位尺度ごとに各得点エリアに対応するガイド記述文への適合感の差を t 検定した。全体として、低得点者のガイド記述文への適合感の弁別は、高得点者のそれと比較してやや曖昧であった。各尺度に低い得点をした被検者は、すべての下位尺度で高エリアの特徴記述文とは有意な適合感の差を示すが、プラス面とマイナス面については、尺度間で異なる差異傾向を示した。

他者志向機能的自我状態下位尺度高得点者のガイド記述文適合感の得点エリア間比較：各自我状態尺度ごとに、ガイド記述文への適合感について得点エリア間の差を t 検定した。下位尺度ごとにいくらか差異があるものの、高得点者の高エリア特徴記述文への適合感は、すべての下位尺度においてプラス面でもマイナス面でも低エリアの特徴記述文より有意に高い値を示した。

他者志向機能的自我状態下位尺度低得点者のガイド記述文適合感の得点エリア間比較：各自自我状態下位尺度ごとに、得点エリア間で適合感の差を t 検定した。自己志向次元と同様、低得点者の低エリア記述文への適合感、高エリアの記述文適合感よりおおむね高い評定値であったが、部分的に差異の方向が逆転するなど、高得点者の場合よりやや弁別性が低く現れている。

考察

プラス面（肯定的適応機能側面）とマイナス面（否定的適応機能側面）の全体的な認知傾向：全体として、自己志向自我状態においても他者志向自我状態においても、マイナス面よりプラス面への自己適合感が高く、被検者は自分の自我機能が望ましい結果をもたらすよう適応的に機能していると感じていることが分かる。

プラス面とマイナス面の認知における心理的エネルギーの志向性と強度の規定性：プラス面（肯定的適応機能側面）とマイナス面（否定的適応機能側面）それぞれにおいて、自我状態を活動させる心理エネルギーの志向性要因と心理エネルギー強度要因を合わせた2要因分散分析を行った結果は、プラス面とマイナス面でガイド記述文適合感認知に異なる傾向が見られた。プラス面については、自己志向次元の適合感より他者志向次元の適合感が高かった。マイナス面については、志向性次元間で有意な差が認められなかった。この結果は、自我状態の他者志向機能が自己志向機能より弁別されやすいという予測に整合する。もう一つの側面である、心理エネルギーの活動水準推定測度である得点エリアの影響については、心理エネルギーの志向性次元と適応性次元を超えて、高得点である方が、自己特徴を記述したガイド内容に対して有意に高い適合感を感じていた。より大きな心理的エネルギーが供給された自我状態の機能に対して、覚醒した自己意識が働き、自己認知の精緻化が促進されるという予測を支持する結果である。

自己志向機能的自我状態・他者志向機能的自我状態の自己認知傾向と適応機能検証データの対応：IUEを指標とする複数検査相関および臨床比較データとの照合を行うと、本研究の結果は先行研究の知見とよく対応した。自我状態の機能亢進が有効な適応性をもたらすICP（自己志向支配的親）、INP（自己志向養育的親）、UNP（他者志向養育的親）、UA（他者志向成人）、UFC（他者志向自由な子ども）に関して、高く得点する被検者は自分の自我状態が適応的に機能すると認知する傾向がある。否定的機能をもたらしやすいIAC（自己志向順応的子ども）の得点が高いと被検者の自己認知も否定的機能を感じやすい。同じく否定的に機能しやすいUCP（他者志向支配的親）については、自己認知に肯定・否定の差が見られない。UAC（他者志向順応的子ども）高得点者は、肯定的機能をより強く認知する傾向がある。IFC（自己志向自由な子ども）とIA（自己志向成人）は臨床データにおいて明確な適応的機能を示さなかったが、被検者の自己認知は肯定的機能を感じやすいという結果である。

一般化の制約：本研究は、得点エリアに対応する各自我状態機能特徴に関する記述文の内容を、評定者の認知に独立して統制できないという、方法論上の問題を抱えている。この事

情は、鏡に映った姿の美醜が、鏡によるものか本人の容姿によるものかを一義に断定できないことに似ている。本研究の結論が一般性を持つためには、複数の類似研究の結果を比較するメタ分析を必要とする。本研究はその一歩として、探索的な知見を提供する。

(要約者：西川和夫)